



「脱腸といえはエキサイカイ」

を目指して



外科・肛門科・呼吸器外科・乳腺外科

外科では2019年1月より直腸癌に対してロボット支援下手術を開始しました。以降、ロボット支援下胃切除術も保険収載術式の拡大に合わせ対応し、これまでに外科として、約100例のロボット支援下手術を施行し、大きな合併症もなく良好な治療成績をおさめております。

市内でも有数の施行数であり、ロボット支援下手術の先進病院として認知されております。

ロボット支援下 鼠径ヘルニア 修復術

2022年にはロボット支援下鼠径ヘルニア修復術が保険収載される予定です。本邦では保険収載に先駆け、全国の鼠径ヘルニア治療の先進病院を選定し、ロボット支援下手術の短期成績を明らかにする臨床研究を開始することになりました。名誉なことに当院の外科が選ばれ、鼠径ヘルニア治療で日本を代表する聖路加国際病院から、松原猛人先生を招聘して10月27日に初症例を施行しました。

脱腸といえは エキサイカイ を目指して。

高齢化社会を迎え、鼠径ヘルニア患者数は年々増加しております。鼠径ヘルニア治療の需要も増す一方



です。

外科では局所・腰椎麻酔を用いた鼠径部切開法、全身麻酔での腹腔鏡手術（TAPP法やTEP法）、ロボット支援下手術と、全国では珍しい、四刀流の治療法を合わせており、患者様の鼠径ヘルニアの種類・状態に合わせた最適な術式を提供可能です。小児に対しては、より小さいキズで施行する腹腔鏡下ヘルニア門縫合閉鎖術（PEC法）も可能です。鼠径ヘルニアで困っている患者様がみえましたら何卒ご紹介を宜しくお願い申し上げます。